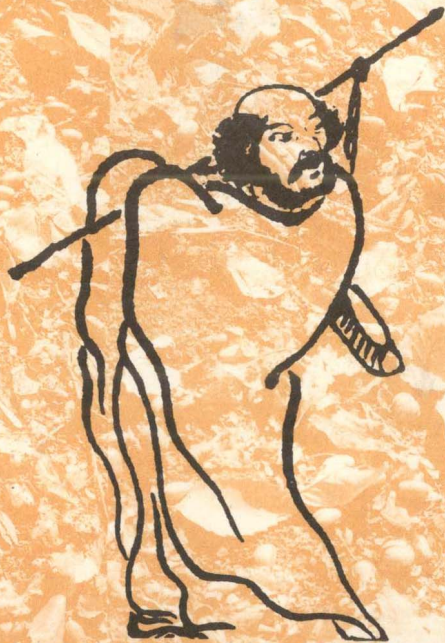


守屋征治 著

男は
意地の
渡せ我慢



男は意地の瘦せ我慢

はじめに

「学級崩壊」「兇悪犯罪の低年齢化」を、一方的に「学校教育」の不備にその責任を押し付けようとする傾向にあるが、それは納得しかねる。

昔から「三つ児の魂百までも」という諺がある。学令に達する迄の「家庭での躾」が肝心なのである。

その「家庭での躾」をまともに行なわなければならないのが、父親を中心とした「家族」である。

近年、「信頼」、「自信」と「誇り」を喪失した、世のお父さん達に、是非とも「復権」して貰わないと困るのである。

お父さん達が、どのようにすれば、家族の「信頼」を再び得られるのか。

どうすれば「誇り」をとり戻せるのか、一緒に考えて行きたい。

このエッセイは、お父さんが「復権」について考える為の「踏み切り板」になってくれれば、嬉しいと考えている。

平成十四年六月

著者

男は意地の痩せ我慢
目次

はじめに		1
エキストラ稼業		9
生命の貴さを教えるのは親の最大の義務		22
教育の基本構想は、父親が建てよ!!		28
世の中の秩序を教えるのも家庭の責任		34
父親は「家族の信頼」を一身に集めろ!!		37

男は意地の痩せ我慢	48
家事は構成員全員で分担せよ!!	59
学校の完全五日制は、親子の絆を一層強める為に使え!!	61
二十一世紀に美しい環境を残そう!!	69
留学のすゝめ	77
陽はまた昇る	89
あとがき	101

題字 細田信子 カバー写真 三井治枝

男は意地の痩せ我慢

エキストラ稼業

俳優や作家は、芸名とかペンネームを使う人が大多数を占めている。しかし男前を彷彿とさせるような氣の利いた、いい名前も想い浮かばないので、本名で行くことにした。

還暦というのは、生まれて六十年目に、同じ千支が巡って来ることを指すのだという。これを一般的には、人生の一区切りと考えている。数年前に還暦を済ませた私などは、云うなればお釣りで生きて居る様なものだ。但し、今の六十才といえば、氣力、体力はまだまだ衰えるなんていう段ではない。あとひと花でも、ふた花でも咲かせる事が出来る年代である。

私は、残念乍ら健康上の都合で、五十五才のときに現役を退ぞかざるを得なかった。

引退後一年近くは、養生專一ということで、かかりつけの医院へ行く以外は、特にこれといったことはしなかった。その間、現役時代の仲間が

「会社を始めたので、手伝つてくれないか」とか

「ある方向へ、事業拡張したいのだが、一緒にやらないか」

等、誘つて下さる方々が数多くいた。ところが、こちらは体に爆弾を抱えている身であり、結果的にご迷惑をかけてはと、丁重にお断りを続けた。今思つても申し訳なかつたし、感謝もしている。

この辺あたりの様子を垣間見ていたらしい娘が、或る日

「どうせ、まともな仕事をする積りは無いんだろう？」と云つて来た。

「あゝ、無いよ」

「じゃあ、こんなのどう？」

と持つて来たのが、新聞の切り抜きである。

旧く。

CM・TV・ドラマ出演

☆男女三、七十才位迄

出演依頼殺到!!

子役・シルバー大歓迎

☆お勤めの方・学生・未経験者大歓迎

☆土日祝日や短期間の出演も多数有

履歴書・スナップ写真・返信用切手送

厚生労働大臣許可 (×××××号)

○△×企画株式会社

「へえー。だけどそう簡単にやあ合格しねえんじやあねえか？」

「そうでもないらしいよ。会社としたら、登録料収入も馬鹿にならないので、入れるだけ

は結構入れているらしいよ」

「ふーん。ちよつと面白そうだな。この歳になつて、折角新しいことを始めるんなら、今まで覗いたことがない所に首をつっこむのも悪くねえな」

と、エキストラ稼業、シルバータレントの世界に迷い込んだ。

この稼業、始めてみると結構面白い！

映画やテレビで活躍している有名な俳優や女優、タレントと同じ現場の空気を吸うだけでも楽しい。場合によっては一言、二言話しも出来る。そして運が良ければ、同じ画面に写し出されて、学生時代の仲間や現役のビジネスマン時代の上司や同僚に羨まやしがらせることもある。しかし、大女優とか、大御所といわれている人種は鬼門である。あの人達は全く種類が違ふ人間である。まあもつとも、エキストラというのは、田舎芝居の舞台の背景に書いてある松の木やお地藏様みたいな物で、「石コロ」と同じなのである。でも、そんな扱いを露骨に受けた時は、顔には笑みを浮かべたまゝで

「何を云つてやがる。大女優だか大看板かは知らねえが、こつちだつて、三十数年間ビジネスの世界で、切つた、張つたの修羅場を、くぐり抜けて来たお兄さんあにい（お爺さん？）

でえ」

と、ウソぶいていれば、大した苦にはならない。

何といつても、エキストラは自分の意志では、一歩たりとも動いてはならない。すべて監督の意を体した、A D（アシスタント・ディレクター）に云われた通りに行動しなければならぬ。

例えば、猛暑の炎天下での野外ロケーション

「指示がある迄、こゝで待機して、下さい」

と云われたら、五十米も先に行けば日蔭があつても、指定された炎天下の「その場所」に何時間でも、待っていないなければならない。但し、これも担当A Dの気の利かせよう一つにかゝる部分が多分にある。自分の仕事に余裕があつたり、少しでもエキストラの立場が判っているA Dだと

「その時が来たら、大きな声で呼びますから、駆け足でこゝへ戻つて来て下さい」

と云つて、要領良く日蔭で休ませてくれる場合も多々ある。

そんなことをやっているうちに、運が良ければ、テレビ・コマーシャルのオーディシ

ヨンにでも合格すれば、こりゃあもう大騒ぎだ。

一般的には、主役に俳優さんか女優さんが一人。我々の同業の男女、それに子役が数人で三世代の家族を形成する。そして商品を囲んで和氣藹々の雰囲気醸し出す。

更に運が良ければ、セリフの一つもまわって来る。そうなると、もう有頂天だ。そんなのが、サッカー中継や野球のナイター中継の間に流れでもすれば、学生時代の仲間や現役時代の仕事仲間から電話が殺到すること間違いなし。

この世界へ入ってみて、はじめて知ったのだが、テレビ番組の中には「再現」という、特殊な映像番組が存在することだ。これは歴史的な出来事や身近に発生した事件等を、視聴者に判り易く知らせる為に、ドラマ仕立て見せたり、視聴者の体験や投稿をもとに、ストーリーにして視せる番組である。これに出演すると、世の中の色々な時代の、色々な職業や環境の人々の姿を演じるので、豊富な役柄を経験することが出来る。これも楽しみの一つである。しかし、事件物や事故物にぶつかると一寸と面倒だ。

というのは、全く同じという訳ではないが、その事件なり事故が起ったときに近い状況に身を置く事になるからである。勿論、現場のスタッフ一同は、慎重の上にも慎重を

極めて安全を確認しながら撮影する。でも、外洋船の上での撮影や救命イカダで漂流する場面では、船に弱い体質の人間にとつては、死ぬかと思われるときもある。

と、まあ年寄りの暇つぶしと云ってしまえばそれまでだが、何んのかのといないながら結構楽しませてくれるのが、このエキストラ稼業であるのだが、一つだけ重大な「問題点」が存在する。

私の観察によると、この業界は次の様な仕組になっているらしい。勿論細かなところに間違いや抜けがあるとは思うが。

一つのドラマを例にとつて見ると、主要キャストを除く出演者については、製作会社から、キャスティング専門会社へ発注が起こされる。それにもとづいて、エキストラ紹介会社は、自社の手持ち登録者の中から、条件に合った者を選抜して紹介する。そして、必要とあらば、オーディションを実施して、決定となる。即ち、所属しているエキストラ紹介会社の、キャスティング担当者の脳裏に自分の顔が浮かばないと話にならない。「待ち」一辺倒なのである。これが先程云つた「問題点」である。

「この世」と「あの世」の間には、「三途さんずの川」というのが流れていて、その川の向う